

今年度の指導の重点		津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組	
1 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と活用能力、主体的な学習態度を育てる授業の創造に学校全体で組織的に取り組み、確かな学力の定着と伸長を図る。 (1) 生徒一人一人の意欲を引き出す授業の創造（アクティブラーニング）(2) 家庭における学習習慣の確立に向けた意図的な指導と保護者への働きかけ 2 生徒の人格・人格を尊重し豊かな心育成を図る。 (1) 道徳教育の充実（心に響き、心を耕す道徳教育）(2) 健全育成(生徒指導)の充実（確固たる規範意識と、自己指導力の育成） (3) 進路指導の充実（キャリア教育の視点に立った進路指導）(4) 特別支援教育の充実（一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実） (5) 情報教育の充実（変化に対応できる態度・能力の育成とICT活用の推進） 3 小中一貫教育のさらなる充実と家庭・地域との連携をより推進する。 (1) 加茂中ブロックの小中一貫教育の見直し（「学び」と「育ち」をつなげる）(2) 地域に根ざした学校教育活動の充実(地域連携の視点)	<input type="checkbox"/> 学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している <input type="checkbox"/> 授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している <input type="checkbox"/> 言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている <input type="checkbox"/> 学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している <input type="checkbox"/> 授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している <input type="checkbox"/> 家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している	当初【 A 】 年度末【 】 当初【 A 】 年度末【 】 当初【 A 】 年度末【 】 当初【 B 】 年度末【 】 当初【 C 】 年度末【 】 当初【 C 】 年度末【 】	

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」  
「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」  
「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(3年) ○国語Aでは県・全国平均と同程度、国語Bでは県・全国平均より低かった。数学Aは県・全国平均より高く、数学Bは県平均を上回り、全国平均と同程度。 ○国語Aでは漢字の読み書き、句や慣用句の意味の理解が高く(「心を打たれた」の意味100%)、チャレンジテストの効果が表れた。 ○国語Bでは「相手に的確に伝わるようにあらずじを捉えて書く」(本校26.2%全国45.1%)が低かった。 ○数学Aでは、図形や一次関数で課題を解決する学習を取り入れた授業を進めた結果、全国平均+10%以上の正答率となった。 県(2年) ○3教科とも基礎・活用すべてで県平均正答率を上回っている。特に国語・数学については基礎・活用ともかなり高い。 ○国語の「書くこと」では県平均+20%と表現力が定着しているが、内容を正確に読み取ること(抜き出し問題など)に苦手がある。 ○英語では、比較的自由な英作文は県平均+10%以上の正答率だったが、語形・語法の知識理解、場面に応じた英作文が低い。 県(1年) ○全体的に2教科とも県平均正答率を下回っている。特に数学の活用はかなり低い。 ○国語では「読むこと」が県平均-12%と低いが、「話すこと(聞くこと)」「書くこと」「言語文化」の領域については県平均より高い。 ○数学ではすべての領域で県平均を下回っており、「百分率」(本校35.7%県54.2%)「場合の数」(本校57.1%県66.5%)とかなり低い。	【学習状況調査の結果】 (全学年)・予習復習、計画的に学習するといった学習習慣は県平均を上回っており、身につけている生徒が多い。 ①テレビ視聴は2時間超の割合(2年71.9%(県51.4%)1年64.3%(52.5%))が県平均より高く、ゲームやインターネットはやや下回る。 ②家庭学習の時間:1時間超の割合(3年69%(県61.4%)2年84.4%(県70.9%)1年92.9%(県82%))は全学年県平均を上回っている。 ③読書時間:平日30分以上の割合(3年23.7%(県32.3%))が低く、全くない割合(3年54.8%(県32.5%))が高い。 ④あいさつ:1,2年生とも100%で、近所の人や学校でのあいさつは自然とできる生徒たちである。 全国(3年) ○全員がはじめは絶対にいけないことだと考えている。○ボランティア経験や地域と関わる機会が多く、地域への関心は高い。 ○数学や理科の授業が大切に考えている生徒の割合が全国平均を大きく上回り、学習が役に立つと感じている生徒の割合も高い。 ○授業で自分の考えが伝わるよう工夫して発表したり、話し合いで考えを深めたり広げたりできると感じている生徒が非常に多い。 県(2年) ○授業の目標(めあて・ねらい)が示されていた(100%)授業で課題を立ててその解決に向けた情報を集め話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいた(90.7%県81.5%)学校の授業の予習をしていた(59.4%県38.7%)など、主体的に授業に取り組む生徒が非常に多い。 県(1年) ○学校の授業の復習をしている割合、問題のやり方だけでなく、答えの理由まで理解しようとする生徒の割合とも県平均より高い。 ○人が困っていると進んで助ける生徒が多い一方で、自分にはよいところがあると思っている生徒の割合は県平均より少ない。

成果	課題
○校内研究で「書く力の育成」に教科を超えて取り組んだことで無回答率(3年数学A1.4%(全国3.3%)数学B6.5%(全国12.6%))が減少し、粘り強く問題に取り組むことができるようになっていく。 ○「将来のために学習することは有効である」、「授業で学んだことは将来の役に立つ」と考える生徒の割合が高く、主体的な学びの姿勢が共有されている。 ○学習規律(加茂中スタンダード)の定着や生徒会(委員会)の呼びかけ等の効果で、全学級落ち着いた雰囲気の中で授業環境にある。 ○継続的に実施してきた校内チャレンジテスト(国語・数学・英語)の成果が漢字の読み書きや慣用句、計算の技能、英単語の定着につながっている。 ○話し合いや班活動を多く取り入れ、その後のふり返りを確実に行うことで、「話すこと・聞くこと」の力が伸びてきている。 ○総合的な学習の時間など異学年交流の授業もあり、自分の考えを工夫して発表したり、対話で自分の考えを深めたり広げたりすることで力を伸ばしている。	○文章の要点を的確に読み取ることに苦手があり、読み取ったことを前提として条件にあった文章を書くことに課題がある。 ○問題に設定されている条件を読み落としている誤答が多く、全学年とも問題文(設問)のポイントを正確に把握することに課題がある。 ○数学(全学年)・理科(3年)・英語(2年)では、基本的な用語が定着していない生徒もいる。 ○数学では特に「割合」「百分率」「場合の数」「位置量」について定着が進んでおらず、定期的な復習を要する。 ○数学の問題であっても、文章を読み取って図式化するなど、「読む能力」を求められるものに苦手がみられる。  ○周囲の評価に比べ、自分を低く評価している生徒がいる。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
読む能力の向上	年度末	現平均ポイントを5ポイント上げる	・朝学習で東書webライブラリを活用(全学年) ・計画的な放課後学習(3年) ・各教科の授業と図書館との連動(全学年) ・定期的にレポートとして課してきた新聞記事の要約などに朝学習で取り組む(全学年)	・東書webライブラリを朝学習・授業で活用 ・3年生放課後学習を実施(13回) ・新聞記事の要約・新聞レポートを全学年で実施(朝学習)	B			
授業改善	年度末	・授業規律の徹底 ・学びを見取るまとも・ふり返りの定着	・校内研究(授業づくり・研究授業・生徒インタビュー・研究協議・研究選價)に継続して全員で取り組む ・魅力ある授業づくりアンケートの実施(全学年) ・加茂小学校との授業参観・交流を継続	・授業研究を4回実施、津山市初任研にも協力し取り組んだ ・魅力ある授業づくりアンケート ・加茂小学校に出前授業、合同講演会の開催	B			
家庭学習の定着と充実	毎学期・毎時間	・課題提出率100% ・次時の予習をさせる	・自主学習ノートの励行・自主学習の相互交流 ・課題(何をいつまでに)を自己管理する情報の構造化 ・家庭学習を活用した授業の展開 ・今後とも課題未提出者等の放課後学習を実施	・家庭学習の充実に関する研修案の作成→3学期研修実施予定 ・提出物カレンダー(各学級)掲示 ・課題未提出者の放課後サポート	C			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」  
「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○県・全国学力・学習状況調査の分析をもとに、強み弱みを共有し、小・中が連携して授業改善を検討し、教科の学力向上に取り組む。 ○小中連携による授業参観を定期的に実施し、児童生徒・学習内容の情報交換・共有を進める。 ○ブロック人研等を利用し、保幼小中連携してテレビ・ゲーム・スマートフォン等メディア利用について情報を共有し、継続的な啓発をする。 ○加茂小学校・加茂中学校共通の「家庭学習の手引き」を検討する。(小学校での自主学習の習慣を無理なく中学校に継続できるように)	○中学校定期テスト期間の「ノーマディア」の実施と協力要請。 ○「学校教育アンケート」を実施し、日々の教育活動にいかす。 ○学級・学年懇談・三者懇談・地区別懇談会・教育講演会等でスマートフォン等メディア利用について情報を共有し、継続的な啓発をする。 ○加茂小学校と連動させた家庭学習の手引きを作成・配布し、家庭学習習慣の定着をめざしたい。 ○地域の行事への参加やボランティア活動等を通して学校教育や生徒への理解をより深めてもらうよう努力する。